

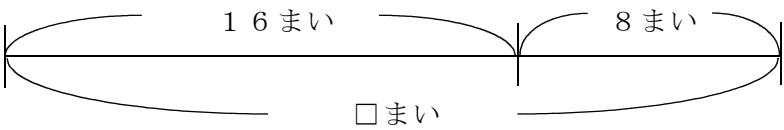
②知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等育むことに重点を置いた授業展開例

～ 第3学年 「式の表し方を考えよう」～

本時の目標

減法構造の場面で、未知の数量を□として考える活動を通して、問題通りに式に表し、□に合う数を求めれば、求めたい答えになることを理解することができる。

本時の展開 (2/7)

段階	主な学習活動	指導と評価
必然 課題 追究 まとめ 振り返り	<p>問題 おりが紙が何まいかありました。8まい使ったので、のこりが16まいになりました。 このことを、はじめにあったおり紙の数を□まいとして、式に表しましょう。 また、□にあてはまる数をもとめましょう。</p>	<p>【評価基準】 減法の場面を□を用いた式や図に表し、□に当てはまる数の求め方を説明している。 <数学的な考え方></p>
	<p>1 問題場面を把握し、場面を整理する。 ・□まいあったおり紙を8枚使ったら、16枚になった。 ・今日はひき算になりそうだな。【※1】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">□を使って式に表し、□にあてはまる数を求めましょう。</p> <p>2 □を使って立式し、□に当てはまる数の求め方を考える。 ・式は□−8=16だ。 ・□は引かれる数だ。問題はひき算だけど、□に当てはまる数を求めるにはたし算を使えば求められるぞ。</p> <p style="margin-left: 20px;"> \curvearrowright □−8=16 \curvearrowright 16+8=24 </p> <p style="text-align: right; margin-right: 100px;">答え 24まい</p>	<p>児童の学習状況 (B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引かれる数が□のときの答えの求め方を考えることができる。そして、たし算を使って□に当てはまる数を求めることができる。
	<p style="text-align: center;">  </p> <p>・線分図に表すと、□は全体の大きさだから、たし算をすれば□に当てはまる数を求められるぞ。</p> <p style="text-align: center;"> $16 + 8 = 24$ 答え 24まい </p> <p>3 全体交流を行う。 ・引かれる数が□のときは、たし算を使えば□の数を求めることができるな。 ・線分図で表すと、たし算になる理由が分かりやすいな。</p>	<p>知識・技能を活用させるために</p> <p>【※1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体が分からないため、場面が把握できず、図で表すのが困難であると考えられる。 そこで、問題の未知数を□として、場面を時系列に確認しながら教師とともに全員で図に表す。 線分図を使って、既習から加法で求められることを説明する部分に重点を置く。
	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">問題場面がひき算でも、分からない数に□を使うと式に表せたり、たし算を使って答えを求めたりすることができる。</p> <p>4 練習問題に取り組む (教科書P91 練習問題4、5)</p> <p>練習問題4 公園で何人か遊んでいました。13人が帰ったので、のこりが17人になりました。 このことを、はじめに遊んでいた人数を□人として、式に表しましょう。 また、□にあてはまる数を求めましょう。</p> <p style="margin-left: 20px;"> 式 □−13=17 17+13=30 答え 30人 </p> <p>練習問題5 (1) □−20=45 (2) □−74=23 (3) □−26=16 45+20=65 23+74=97 16+26=42</p>	<ul style="list-style-type: none"> はじめの問題の考え方を基に、練習問題4では、立式して、□の値を求めるところまで個で取り組ませる。 練習問題5は、まとめを使って求められることを実感させるために確実にやる。